

(1) 懇談会等を踏まえた施策内容の修正について

【基本目標 3】

基本目標 3

● 施策 3-1 「脱炭素化の推進と豊かな自然の継承」

意見	対応
<p>炭素の排出量削減だけでなく、吸収・蓄積に関する内容があっても良いのではないか。</p>	<p>実施計画において、施策4-9の主要事業「グリーンインフラを活用した持続可能なまちづくりの推進」を再掲</p>
<p>温室効果ガスを削減するという緩和策だけではなくて、吸収の部分についての位置付けは、グリーンインフラがそうした役割を果たす。</p>	<p>主観的指標である「身近な場所で水や緑に親しめると感じる区民の割合」の指標を、みどりだけでなく、水を含めた客観的指標である「みどり率」に変更。</p>
<p>本施策がめざすのは、水やみどりがしっかりと整備されることで生物多様性の保全も図られ、そういう状態が確保されることであるため、主観的指標だけでなく客観的指標である「緑被率」も設定すべきではないか。</p>	

3-1 脱炭素化の推進と豊かな自然の継承

【参考】対応する基本構想で描いた2040年ごろのまちの姿

基本目標 豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち

まちの姿

- ・自分の行動が未来の環境を大きく左右するという意識を持ち、環境に配慮した行動を実践しています。
- ・次世代クリーンエネルギーや新技術の活用を含む脱炭素への積極的な行動により、カーボンニュートラルの実現に向けた歩みを着実に進めています。

4 めざす姿

めざす姿①

省エネ・創エネ・蓄エネを通じたカーボンハーフの取組の進捗とともに、次世代クリーンエネルギーや新技術の社会実装が始まる中、「2050年までの脱炭素社会の実現」に向けて、区民・事業者・区が一体となって温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

対応する課題

課題①②③

めざす姿②

誰もが自然に配慮しながら人間活動を営んでおり、自然と共生する生活空間や職場環境が実現しています。生物多様性の恵みにより、区民の生活がより豊かとなり持続可能な環境負荷の低い経済活動が成立しています。

対応する課題

課題④

5-1 指標名

指標①（めざす姿①に対応）

大田区内における温室効果ガス排出量の削減率

指標②（めざす姿①に対応）

大田区役所の温室効果ガス排出量の削減率

指標③（めざす姿②に対応）

「生きものの豊かさ」の満足度

指標④（めざす姿②に対応）

【再掲4-9】身近な場所で水や緑に親しめると感じる区民の割合

3-1 脱炭素化の推進と豊かな自然の継承

修正後

【参考】対応する基本構想で描いた2040年ごろのまちの姿

基本目標 豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち

まちの姿

- ・自分の行動が未来の環境を大きく左右するという意識を持ち、環境に配慮した行動を実践しています。
- ・次世代クリーンエネルギーや新技術の活用を含む脱炭素への積極的な行動により、カーボンニュートラルの実現に向けた歩みを着実に進めています。

4 めざす姿

めざす姿①

省エネ・創エネ・蓄エネを通じたカーボンハーフの取組の進捗とともに、次世代クリーンエネルギーや新技術の社会実装が始まる中、「2050年までの脱炭素社会の実現」に向けて、区民・事業者・区が一体となって温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。

対応する課題

課題①②③

めざす姿②

誰もが自然に配慮しながら人間活動を営んでおり、自然と共生する生活空間や職場環境が実現しています。生物多様性の恵みにより、区民の生活がより豊かとなり持続可能な環境負荷の低い経済活動が成立しています。

対応する課題

課題④

5-1 指標名

指標①（めざす姿①に対応）

大田区内における温室効果ガス排出量の削減率

指標②（めざす姿①に対応）

大田区役所の温室効果ガス排出量の削減率

指標③（めざす姿②に対応）

「生きものの豊かさ」の満足度

指標④（めざす姿②に対応）

みどり率

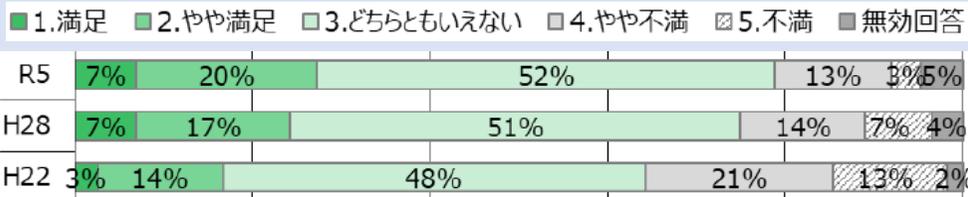
5-2 指標・目標値

■ 指標③ 「生きものの豊かさ」の満足度

(1) 指標の把握方法・算出方法

大田区環境基本計画の策定に係る区民アンケート調査
「あなたは、大田区の環境をどのように感じていますか？（項目：生きものの豊かさ）」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した区民の数／調査回答総数×100

(2) 指標の過去データ



資料：大田区環境基本計画の策定に係る区民アンケート調査

(3) 最新値

27.0% (令和5年度)

(4) 目標値

40.0% (令和12年度)

(5) 目標値の設定理由

同調査における満足度の高い指標を参考に過去の指標値を精査して目標値を設定。

※満足&やや満足：どちらともいえない→40%：40%が目標値(参考)

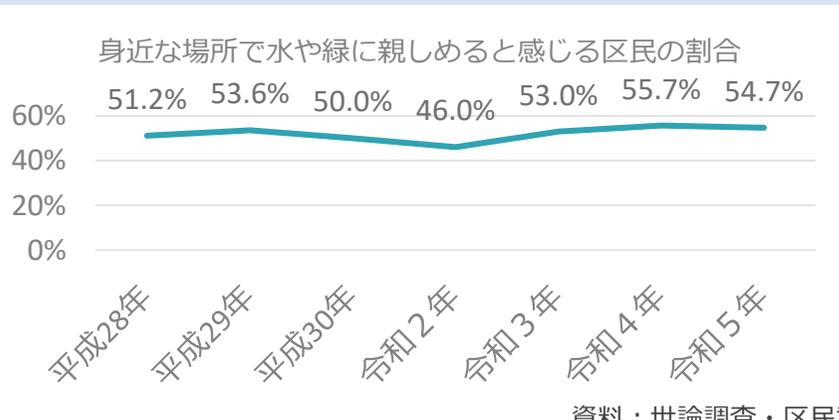
- ・公共交通機関の利用のしやすさ：66%
- ・まわりの静かさ：42%
- ・水と水辺のきれいさ：31%

■ 指標④ 【再掲4-9】 身近な場所で水や緑に親しめると感じる区民の割合

(1) 指標の把握方法・算出方法

大田区政に関する世論調査・区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査
「身近な場所で水や緑に親しめると感じていますか。」という設問に対し、「感じている」「やや感じている」と回答した区民の数／調査回答総数×100

(2) 指標の過去データ



資料：世論調査・区民意識調査

(3) 最新値

54.7% (令和5年度)

(4) 目標値

60% (令和10年度)
65% (令和14年度)

(5) 目標値の設定理由

グリーンプランに基づく、グリーンインフラの推進により、水と緑に親しめる空間や取組が増えることを見込み目標値を設定する。

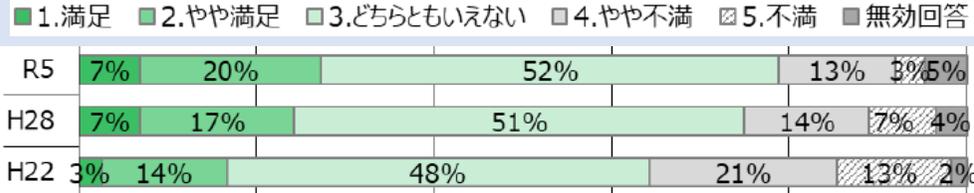
5-2 指標・目標値

■ 指標③ 「生きものの豊かさ」の満足度

(1) 指標の把握方法・算出方法

大田区環境基本計画の策定に係る区民アンケート調査
「あなたは、大田区の環境をどのように感じていますか？（項目：生きものの豊かさ）」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した区民の数／調査回答総数×100

(2) 指標の過去データ



資料：大田区環境基本計画の策定に係る区民アンケート調査

(3) 最新値

(4) 目標値

27.0% (令和5年度)

40.0% (令和12年度)

(5) 目標値の設定理由

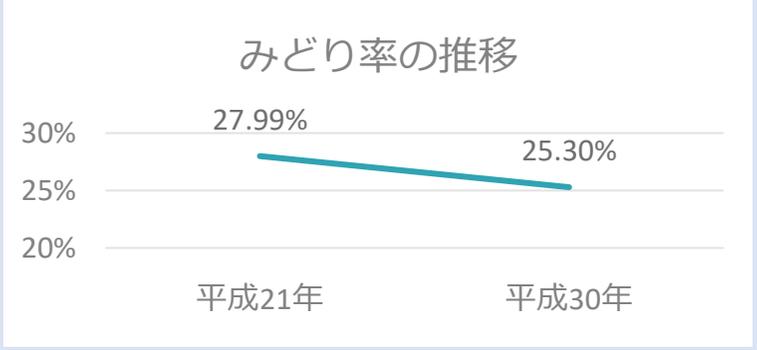
同調査における満足度の高い指標を参考に過去の指標値を精査して目標値を設定。
※満足&やや満足：どちらともいえない→40%：40%が目標値(参考)
・公共交通機関の利用のしやすさ：66%
・まわりの静かさ：42% ・水と水辺のきれいさ：31%

■ 指標④ みどり率

(1) 指標の把握方法・算出方法

「大田区みどりの実態調査」によるみどり率
緑被率に「水面が占める割合」と「公園内の緑被で覆われていない面積の割合」を加えたもの

(2) 指標の過去データ



資料：大田区みどりの実態調査

(3) 最新値

(4) 目標値

25.30% (平成30年度)

27.86% (令和10年度)
28.37% (令和12年度)

(5) 目標値の設定理由

施策4-9の指標②緑被率の目標値を準用して設定 (将来的に区内の水面面積に大きな増減はないものと仮定)

基本目標 3

● 施策 3-3 「区内企業の自己変革の促進」

意見	対応
課題②について、大田区の製造業の強みは、卓越した技術を持っている点も強みだと思うので、その点も言及してはどうか。	課題②について文言を追記

3-3 区内企業の自己変革の促進

3 現状と課題

現状①

国際情勢の変化をはじめとする不確実性の高まりやニーズの多様化など、区内企業は多岐にわたる課題に直面しています。(参考：図表①)

課題①

環境変化に対応するための自己変革力を向上させるとともに、大田区産業が成長・発展するための機会と捉え、ビジネスチャンスにつなげていく必要があります。

現状②

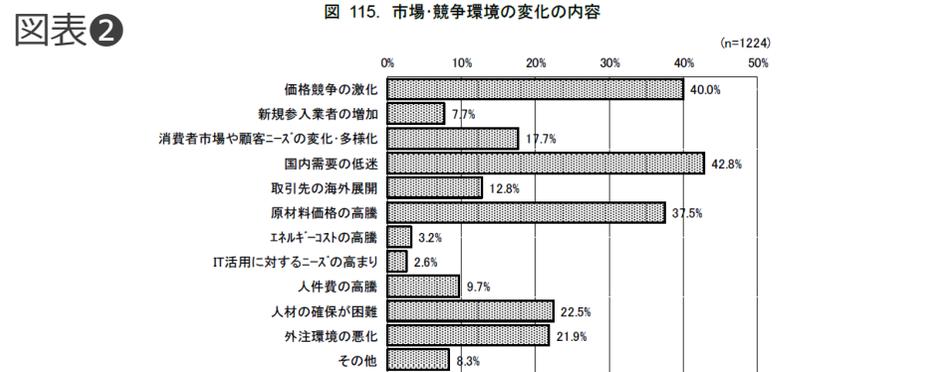
産業構造の変化に伴い、既存市場の縮小が懸念されています。特に、ものづくり企業を取り巻く市場環境では、価格競争の激化、国内需要の低迷といった変化が見られます。(参考：図表②)

課題②

区内企業の強みである提案力と仲間まわしネットワークを活かした販路拡大・顧客開拓のため、マーケティング力を強化し、国内のみならず海外を含めた多角的な市場展開を推進することが求められます。



資料：経済産業省「令和4年版通商白書」、Economic Policy Uncertainty「Economic Policy Uncertainty Index」をもとに大田区にて作成



3-3 区内企業の自己変革の促進

3 現状と課題

現状①

国際情勢の変化をはじめとする不確実性の高まりやニーズの多様化など、区内企業は多岐にわたる課題に直面しています。(参考：図表①)

課題①

環境変化に対応するための自己変革力を向上させるとともに、大田区産業が成長・発展するための機会と捉え、ビジネスチャンスにつなげていく必要があります。

現状②

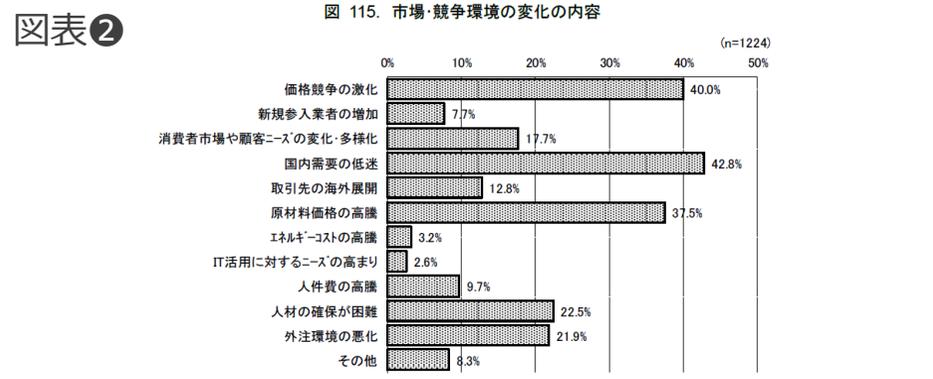
産業構造の変化に伴い、既存市場の縮小が懸念されています。特に、ものづくり企業を取り巻く市場環境では、価格競争の激化、国内需要の低迷といった変化が見られます。(参考：図表②)

課題②

区内企業の強みである**卓越した技術と提案力**、**仲間まわしネットワーク**を活かした販路拡大・顧客開拓のため、マーケティング力を強化し、**国内外への**多角的な市場展開を推進することが求められます。



資料：経済産業省「令和4年版通商白書」、Economic Policy Uncertainty「Economic Policy Uncertainty Index」をもとに大田区にて作成



基本目標 3

●施策3-4 「ものづくりの次世代への承継と立地支援」

意見	対応
<p>○指標④について 「大田区の特徴」であればわかるが、「大田区の好きなところ」という聞き方では、「ものづくり産業」という答えを多く引き出すのは難しいのではないか。</p>	<p><u>指標④を、「大田区のイメージ」について「ものづくりのまち」を選んだ割合」に変更。</u></p>
<p>指標④「大田区の好きなところにもものづくり産業を選ぶ割合」は区民によるものづくりに対する地場産業としての理解を測る指標とは成り得ても、「大田区のものづくりの認知度」の向上の度合いを測る指標としては適切とは思えない。「大田区のものづくりの認知度」の向上を目指すのであれば、寧ろ、区外、国内、海外における大田区に対する印象にもものづくりというキーワードが含まれる割合を測るべきではないか。</p>	

【参考】対応する基本構想で描いた2040年ごろのまちの姿

基本目標 豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち

まちの姿 区内企業が社会環境の変化に柔軟に対応することにより、生産性の向上や産業集積の維持・発展につながっています。

4 めざす姿

めざす姿②

対応する課題

企業の成長段階に応じたハード・ソフト両面のきめ細かな支援により、ものづくり産業とそれを支える幅広い産業が重層的に集積しています。「産業のまち大田区」として、住工の調和がとれた操業環境が維持され、大田のものづくりの認知度が向上することで、企業立地や人材確保などに好循環が生まれています。

課題③④

5-1 指標名

指標③（めざす姿②に対応）

区内製造業の粗付加価値額

指標④（めざす姿②に対応）

「大田区の好きなところ」について「ものづくり産業」を選んだ割合

指標を再検討

【参考】対応する基本構想で描いた2040年ごろのまちの姿

基本目標 豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち

まちの姿 区内企業が社会環境の変化に柔軟に対応することにより、生産性の向上や産業集積の維持・発展につながっています。

4 めざす姿

めざす姿②

対応する課題

企業の成長段階に応じたハード・ソフト両面のきめ細かな支援により、ものづくり産業とそれを支える幅広い産業が重層的に集積しています。「産業のまち大田区」として、住工の調和がとれた操業環境が維持され、大田のものづくりの認知度が向上することで、企業立地や人材確保などに好循環が生まれています。

課題③④

5-1 指標名

指標③（めざす姿②に対応）

区内製造業の粗付加価値額

指標④（めざす姿②に対応）

「大田区のイメージ」について
「ものづくりのまち」を選んだ割合

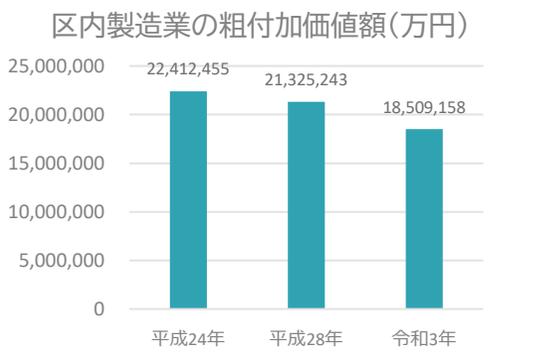
5-2 指標・目標値

■ 指標③ 区内製造業の粗付加価値額

(1) 指標の把握方法・算出方法

総務省・経済産業省「経済センサス（活動調査）」の結果による区内製造業の粗付加価値額（従業員4人以上）

(2) 指標の過去データ



資料：総務省・経済産業省「経済センサス（活動調査）」

(3) 最新値

1,850億円（令和3年度）

(4) 目標値

1,850億円（令和10年度）
1,850億円（令和14年度）

(5) 目標値の設定理由

現状としては、原材料費・光熱費等の高騰、人材難に対する賃上げ圧力等により利益を上げづらい状況にあるため、現状維持をめざす。

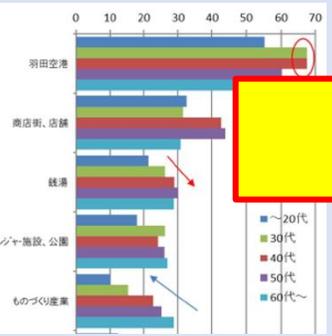
■ 指標④ 「大田区の好きなところ」について「ものづくり産業」を選んだ割合

(1) 指標の把握方法・算出方法

「シティプロモーション調査」により「大田区の好きなところ」について「ものづくり産業」を選んだ割合（特に20代以下の推移）

(2) 指標の過去データ

大田区の好きなところ 年代別（%）



指標を再検討

資料：令和4年度シティプロモーション調査

(3) 最新値

10%(令和4年度)

(4) 目標値

15%（令和10年度）
20%（令和14年度）

(5) 目標値の設定理由

令和10年度の目標は、令和4年度時点の30代と同レベル、令和14年度の目標は、令和4年度時点の40代と同レベルを想定。（20代の「銭湯」と同程度をめざす。）

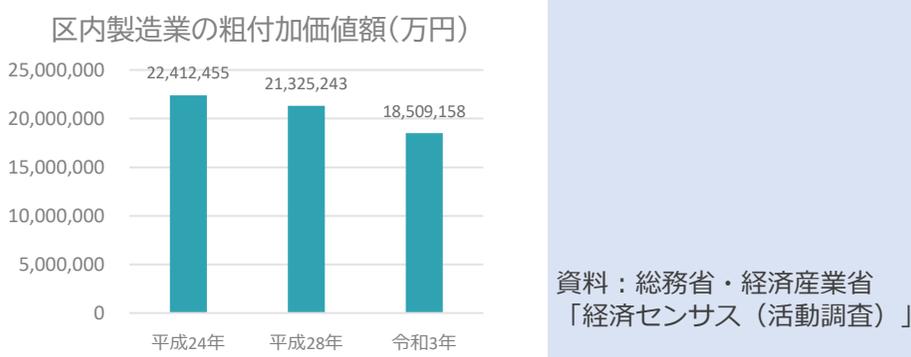
5-2 指標・目標値

■ 指標③ 区内製造業の粗付加価値額

(1) 指標の把握方法・算出方法

総務省・経済産業省「経済センサス（活動調査）」の結果による区内製造業の粗付加価値額（従業員4人以上）

(2) 指標の過去データ



(3) 最新値

1,850億円（令和3年度）

(4) 目標値

1,850億円（令和10年度）
1,850億円（令和14年度）

(5) 目標値の設定理由

現状としては、原材料費・光熱費等の高騰、人材難に対する賃上げ圧力等により利益を上げづらい状況にあるため、現状維持をめざす。

■ 指標④ 「大田区のイメージ」について「ものづくりのまち」を選んだ割合

(1) 指標の把握方法・算出方法

大田区シティプロモーション調査
「あなたは大田区について、どのようなイメージをもっていますか」という設問に対し、「ものづくりのまち」と回答した区民及び区民以外の数/調査回答総数×100

(2) 指標の過去データ

なし

(3) 最新値

調査中(令和6年度)

(4) 目標値

検討中（令和10年度）
検討中（令和14年度）

(5) 目標値の設定理由

令和6年度の本調査は現在調査中のため、結果を受けて目標値を今後検討する。

基本目標 3

● 施策3-6 「活気あふれる商店街づくりと魅力ある観光資源の創出・発信」

庁内の検討における修正点

個店の支援は商店街の持続可能な運営基盤の強化に寄与するため、**施策の方向性②を①に統合。**

6 施策の方向性

①商店街の持続的な運営とにぎわい創出等の支援



商店街運営の効率化、次世代の担い手の育成等、商店街の自律的で持続可能な運営基盤を強化するための取組を進めるとともに、商店街環境の整備、地域の特性を活かしたイベントなど商店街が起点となり主体的に賑わいを創出する事業を支援します。

②大田区ならではの魅力ある商業集積の発展



地域に元気と活気をもたらす個店を増やすために、個店の課題・ニーズ等を踏まえた新たな取組への伴走支援など、個店の継続的な成長につながる支援を積極的に実施していきます。

③区の魅力の発信と来訪者の利便性向上



大田区ならではの歴史や文化、食の魅力、銭湯や商店街など、地域資源を見える化し、磨き上げ、魅力を創出していくため、回遊促進事業等の取組を引き続き行っていきます。

また、羽田空港を擁する大田区だからこそできる来訪者の利便性向上につながる取組等を、企業等との連携も視野に検討していきます。

観光関連情報を観光PRサイトや各種SNSで積極的に発信し、大田区の更なる認知向上につなげます。

6 施策の方向性

①商店街の持続的な運営とにぎわい創出等の支援



商店街環境の整備、地域の特性を活かしたイベントなど、商店街が起点となり主体的に賑わいを創出する事業への支援や個店の継続的な成長につながる援助を行うとともに、商店街運営の効率化、次世代の担い手の育成等、商店街の自律的で持続可能な運営基盤を強化するための取組を進めます。

施策の方向性②（個店支援）を①（商店街）に統合

③区の魅力の発信と来訪者の利便性向上



大田区ならではの歴史や文化、食の魅力、銭湯や商店街など、地域資源を見える化し、磨き上げ、魅力を創出していくため、回遊促進事業等の取組を引き続き行っていきます。

また、羽田空港を擁する大田区だからこそできる来訪者の利便性向上につながる取組等を、企業等との連携も視野に検討していきます。

観光関連情報を観光PRサイトや各種SNSで積極的に発信し、大田区の更なる認知向上につなげます。